

PINCH・CHANCE・CHANGE！？

～百年に一度の大不況をバリュー投資で乗り越える～

チーム名：SL900187

立教池袋高等学校・数理研究同好会

リーダー 2年 鎗木 導明

2年 田中 優裕

2年 喜多村 晟大

担当教諭 内田 芳宏

1:ポートフォリオ

コード	銘柄名	上場市場	投資金額
1878	大東建託	東証1部	243,600
2432	ディー・エヌ・エー	東証1部	331,240
4503	アステラス製薬	東証1部	155,600
4508	田辺三菱製薬	東証1部	167,790
4901	富士フィルムホールディングス	東証1部	285,820
5444	大和工業	東証1部	315,240
5713	住友金属鉱山	東証1部	345,948
6301	小松製作所	東証1部	355,784
6758	ソニー	東証1部	326,211
6902	デンソー	東証1部	315,600
7201	日産自動車	東証1部	336,337
7203	トヨタ自動車	東証1部	246,000
7718	スター精密	東証1部	306,559
7974	任天堂	東証1部	295,400
8058	三菱商事	東証1部	346,020
9104	商船三井	東証1部	355,914
9433	KDDI	東証1部	186,000

2:はじめに

～テーマ選定～

10月にリーマンブラザーズの破綻が引き金となり世界中で起きた大不況。この不況は100年に一度ともいわれ、世界中の株式市場が値を大幅に下げた。アメリカ(ダウ平均)(資料A)は当然のことながら、それを上回る下がり方を見せた日本の市場(日経平均)(資料B)。さらに大幅な円高(資料C)の今は輸出が不利に陥り自動車業を筆頭に多くの企業が大幅減益となった。世界中での不況により日本市場で多くの割合を占める外国人保有の株が大量に売りにかけられるなど市場にとって様々なマイナスの要因が発生し、市場下落に拍車をかけている。世界中での大不況、私達は話題性

の圧倒的に大きいこの大規模な市場変動を起こした事件をテーマにポートフォリオを組むことにした。私達はこのようなテーマにして、この恐慌で大ダメージを受けた企業に投資を行い、いち早くダメージから立ち直り、社会全体の状況を良くしてってもらいたいと考えた。それがうまくいけば景気はよくなり、投資家としても投資のしがいがあるというものだ。

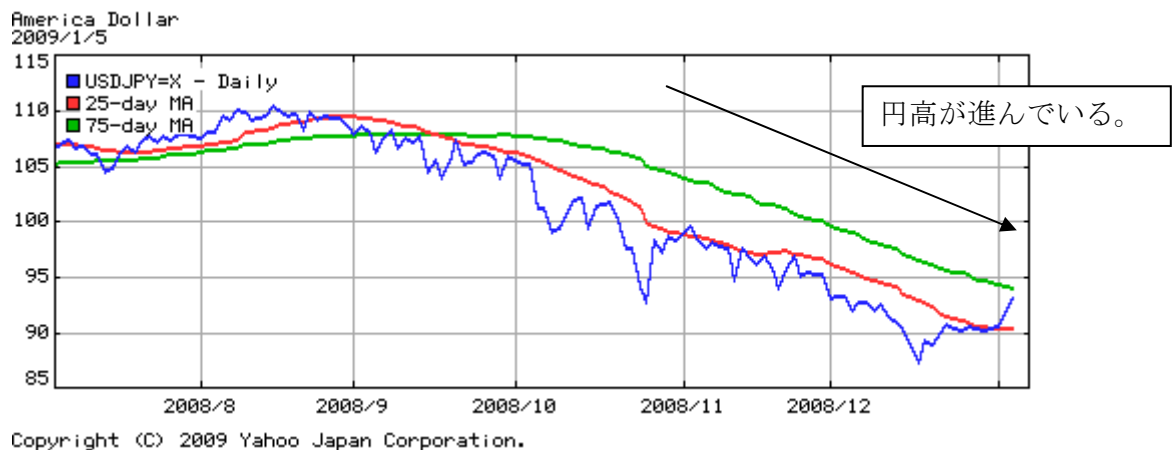
まず方向性であるが、私達はお金を減らすために遊びで投資を行っているわけではない。環境を良く考慮している、格安で商品を売っている、人の命を助けている、このように業務内容が良いからといって業績が良いとは限らないし、株価が上がるとも限らない。いくら業務内容がよくとも投資する価値があるかどうかを見極めなくては投資を行っても資金を減らすだけである。今回のテーマはこの不況の時期に賢く投資をして、いかに投資金額を維持、増加させるか。その為に不況を耐え抜き乗り越える、そのような企業を見つけ、投資する価値に見合うかどうかを自分達なりに見極めていきたいと思う。



資料A：ダウ平均(2008年)



資料B：日経平均(2008年)



資料C：円のドル相場

～テーマ概要～

大不況によって多くの銘柄が値を下げた。そして、社員を削減したり倒産する企業も出てきた。そんな時どんな企業が不況を乗り越えられるのか、私達はまずそれを考えた。この不況で倒産してしまっは社会の建て直し(活性化)どころではなくなってしまうからである。そこで、私達はいくら景気が悪いといっても需要が安定していたり、生活に不可欠な企業への投資を考えた。いわゆる景気鈍感株と呼ばれる製薬、ガス、電機などの景気、業績との連動性が低い株である。だが、ただ耐え忍ぶだけでよいのだろうか。そう思っていた時、私達は新聞で有名な投資家ウォーレン・バフェットに関する記事を見た。その記事では「バフェット氏 危機に動く“今こそ好機” 未来を買う」という見出しがつけられていた。彼は「皆が貪欲なときには慎重に、皆がおじけづいているときは欲張りになれ」と語っていた。(日経ヴェリタス 12 月 14 日発行より) バフェットは 100 年に一度といわれる危機に動き出したのである。私達はその彼の姿勢を見てこの不況に対する方針を変えることにした。

そもそも、日経平均下落の理由には外国人投資家の影響もある。外国人投資家による日本株の保有比率は 20% 近くとなっており、売買代金に占めるシェアは 50% 近くになっている(all about 株式投資用語集より)。すると、彼らがこの不況で保有する株を手放し売却することで株価は下落するのである。だが、私達はこのような売買により下落した値は一時的なものであると考えた。さらに現段階で円高の影響を受ける業界は今の円高から円安へと変われば元の値を戻し業績は伸びるとみた。そこで、今をチャンスと見て投資を行うのがよいと考え、バリュー投資という投資方法に注目した。バリュー投資とはその株の収益性、資産、成長性などからその株の価値を見積もり、その価値よりも割安であると判断した株に投資する方法である(all about 株式投資用語集より)。この投資方法で投資を行うことで、投資金額に対して規模の大きく、社会に影響力のある企業に投資ができることに気がついた。多くの株が安くなっている今、バフェットの言うように株を買わない手は無いのではないかと。技術力や、環境に的を絞ったテーマで投資することも重要ではあるが、テーマ自体に執着しすぎて投資金額を減らしてしまっは企業に投資をする意味がなくなってしまうのではないかと。そのように考えたとき、賢く投資をするには 100 年に 1 度のこの状況を見極め、私達は投資先を慎重に選ばなければならないのである。その為にはバリュー株という株式の値が、その株式の価値よりも割安であると思われる株を買い、この大不況をテーマにもってくることで、自分達の考える投資の意味を再確認すると共に、どうしたら乗り切れるのか、どうやったら賢い投資

ができるかを学び直そうと思った。

3: 銘柄選考

私達は投資を行ううえで企業の倒産の危険性をどのように回避するかを考えた。バリュー株を買うといってもただ闇雲に安値の株を買えばよいというわけではない。あらかじめ企業の業績などの情報を分析しこの不況で倒産の危険性の少ない優良企業に投資しなければならない。意味合いとしては、いつ壊れるかわからない中古車を破格で買うより、特別価格で販売されている新車を買うようなものだと思う。その為、何を判断材料として企業の安全性、割安性を見るかが問題となってくる。割安性は 2008 年度の年初来高値と年初来安値から下落率を求めることで判断できると考えた。問題は安全性をどのようにして比較するかである。企業の自己資本比率か、それとも現金の保有量か、企業規模か、収益性なのか。判断材料は多すぎてまとめることができない。そこで日経ナビの優良企業ランキングを参考にしながら銘柄を選考した。このランキングは毎年 9 月に日本経済新聞社が発表している財務データを中心に評価したものである(資料D)。就活サイトと銘打っているが、投資する際にも経営状況の分析ができるため、判断材料としては最適であると考えた。あまり差が出てしまうとランキングを利用する意味が薄くなってしまうことや、ポートフォリオの 20 社の枠から考慮した結果、そのためこのランキングの得点の開きの限界を 250 くらいが適当であるとして、上位 50 位までの企業から選ぶことにした。このランキングを優先的に利用することで割安性よりも安全性を重視する考えに沿うようになった。

なぜ私達が安全性を重視したかという、この大不況は実はまだ底が来ていないのかもしれないと考えたからである。もしかしたら少し前に騒がれていたアメリカBIG3がどうかしてしまうこともありえる。円高が加速することもあるかもしれない。すると、不況で弱体化していた企業がおおきく倒産していくことも考えられる。つまり私達は仮にもう 1 つか 2 つマイナスの波が来ても耐え切り、回復に迎える企業を探したかった。だから、より大きな企業に対して投資することが望ましいと考えていたのである。普段は大企業に投資すると莫大な資金が必要になってしまう。そのための割安性を同時に考えるということで私達の考える賢い投資ができるのではないかと考えた。

評価項目	財務指標	評価項目	財務指標
規模	売上高	安全性	借入金依存度
	総資産		有利子負債/総資産率
	従業員数		売上高純金利負担率
	営業キャッシュフロー		自己資本比率
収益性	売上高経常利益率	成長力	総資産伸び率 1 年
	自己資本利益率		従業員数伸び率 3 年
	使用総資本経常利益率		自己資本伸び率 3 年
	従業員 1 人当たり 利払い後事業利益		

資料D：優良企業ランキングを構成する評価項目と指標

順位	会社名	総合得点	規模	収益性	安全性	成長力	コード
1 位	任天堂	1000	82	77	94	52	7974
2 位	ファナック	948	76	75	94	49	6954
3 位	アステラス製薬	916	83	69	79	55	4503
4 位	武田製薬工業	894	85	79	75	31	4502
5 位	キーエンス	884	64	74	92	58	6861
6 位	ローム	875	81	49	100	41	6963
7 位	キヤノン	869	92	68	62	45	7751
8 位	トレンド	843	60	68	90	65	4704
9 位	トヨタ	843	100	55	55	49	7203
10 位	NTTドコモ	831	88	71	58	41	9437
11 位	信越化	824	83	74	60	42	4063
12 位	ホンダ	820	97	52	54	54	7267
13 位	ディーエヌエ	811	42	77	85	90	2432
14 位	SUMCO	805	74	77	46	76	3436
15 位	京セラ	799	87	58	66	39	6971
16 位	デンソー	798	91	57	58	44	6902
17 位	KDDI	796	85	68	52	50	9433
18 位	ヒロセ電	794	61	62	91	51	6806
19 位	NTT	791	96	58	49	43	9432
20 位	新日鉄	789	90	65	49	45	5401
21 位	東エレク	788	74	77	58	48	8035
22 位	住友鋳	787	77	80	47	54	5713
23 位	JFE	785	88	66	47	50	5411
24 位	コマツ	783	84	71	45	54	6301
25 位	ヤフー	782	64	79	54	74	4689
26 位	オービック	780	55	64	96	48	4684
27 位	大東建	779	67	54	80	63	1878
28 位	三菱商	778	96	51	47	53	8058
29 位	日産自	777	96	55	48	44	7201
29 位	HOYA	777	75	67	53	67	7741
31 位	ソニー	776	96	48	50	52	6758
32 位	商船三井	775	80	76	41	59	9104
33 位	JT	773	88	58	43	66	2914
34 位	TDK	771	81	52	67	51	6762
35 位	日本オラクル	768	54	76	81	51	4716
35 位	マブチ	768	66	45	99	43	6592

35 位	村田製	768	77	63	64	46	6981
38 位	パナソニック	765	95	51	54	38	6752
39 位	アイシン	760	88	52	52	55	7259
40 位	住金	758	83	71	44	48	5405
41 位	富士フイルム	757	90	52	56	42	4901
42 位	スター精	756	55	62	86	59	7718
43 位	田辺三菱	755	65	57	61	86	4508
43 位	リコー	755	88	54	54	46	7752
45 位	住友電	754	89	48	52	57	5802
46 位	三菱電	752	91	53	49	48	6503
47 位	塩野義	751	62	59	87	43	4507
48 位	大和工	749	58	83	64	51	5444
48 位	豊田織	749	89	49	59	41	6201
50 位	丸一管	748	58	58	93	43	5463
50 位	三井物	748	94	52	43	51	8031

資料E：日経ナビ優良企業ナビランキング(上位 50 位まで)

資料Eから同じ業種の銘柄同士で比較を行い、同業種はポートフォリオには多くとも 2～3 銘柄にしてリスクを軽減させた(分散投資の理念に基づく)。P E RやP B Rを参考にすることで比較をした。(資料F) ※下落度は下落率とは別に銘柄を比較する指標として独自に作った(100－下落率と同じである)。

企業名	年初来 高値	年初来 安値	下落率	業種	予PER	実PBR	下落度 (年初来安値 ÷ 年初来高値 × 100)	予PER × 実PBR × 下落度
任天堂	64,500	21,600	66.5	サービス	11.81	2.93	33.5	1159.2
トレンド	4,370	1,974	54.8	サービス	19.47	3.7	45.2	3256.2
ディーエヌエ	781,000	193,200	75.3	サービス	13.51	4.5	24.7	1501.6
ヤフー	55,400	25,600	53.8	サービス	23.52	7.92	46.2	8606.1
オービック	20,760	11,450	44.8	サービス	12.76	1,204.80	55.2	848603.3
日本オラクル	5,030	3,350	33.4	サービス	21.84	6.08	66.6	8843.6
ファナック	11,960	4,800	59.9	電気機器	13.66	1.36	40.1	745
キーエンス	27,514	13,670	50.3	電気機器	14.98	1.64	49.7	1221
ローム	9,880	3,500	64.6	電気機器	34.72	0.6	35.4	737.5
キャノン	5,820	2,215	61.9	電気機器	10.33	1.22	38.1	480.2
京セラ	10,940	4,330	60.4	電気機器	17.22	0.65	39.6	443.2
デンソー	4,600	1,381	70	電気機器	14.07	0.62	30	261.7
ヒロセ電	13,150	5,950	54.8	電気機器	20.18	1.31	45.2	1194.9
東エレクト	7,360	2,305	68.7	電気機器	58.01	0.85	31.3	1543.4

ソニー	6,300	1,766	72	電気機器	12.44	0.54	28	188.1
TDK	8,210	2,600	68.3	電気機器	15.42	0.53	31.7	259.1
マブチ	6,740	2,845	57.8	電気機器	33.28	0.73	42.2	1025.2
村田製	6,400	2,630	58.9	電気機器	23.72	0.82	41.1	799.4
パナソニック	2,515	1,248	50.4	電気機器	10.66	0.76	49.6	401.8
三菱電	1,269	400	68.5	電気機器	8.37	0.95	31.5	250.5
アステラス製薬	5,040	3,300	34.5	医薬品	12.07	1.75	65.5	1383.5
武田製薬工業	6,740	4,160	38.3	医薬品	19.06	1.73	61.7	2034.5
田辺三菱	1,554	960	38.2	医薬品	18.54	1	61.8	1145.8
塩野義	2,520	1,411	44	医薬品	24.47	2.05	56	2809.2
トヨタ	6,400	2,840	55.6	自動車	19.62	0.82	44.4	714.3
ホンダ	3,910	1,775	54.6	自動車	7.91	0.8	45.4	287.3
日産自	1,149	303	73.6	自動車	9.77	0.4	26.4	103.2
アイシン	4,800	1,194	75.1	自動車	8.72	0.48	24.9	104.2
NTTドコモ	189,000	136,000	28	通信	14.41	1.51	72	1566.7
KDDI	842,000	480,000	43	通信	10.94	1.51	57	941.6
NTT	581,000	371,000	36.1	通信	12.09	0.76	63.9	587.1
SUMCO	3,060	772	74.8	非鉄・金属	7.71	0.64	25.2	124.3
住友鋳	2,310	552	76.1	非鉄・金属	6.23	0.69	23.9	102.7
住友電	1,826	614	66.4	非鉄・金属	8.36	0.55	33.6	154.5
新日鉄	705	243	65.5	鋼鉄	5.86	0.92	34.5	186
JFE	6,420	1,852	71.2	鋼鉄	4.77	0.82	28.8	112.6
住金	554	160	71.1	鉄鋼	5.87	1.12	28.9	190
大和工	5,940	1,697	71.4	鉄鋼	4.29	0.73	28.6	89.6
丸一管	3,850	1,640	57.4	鉄鋼	14.78	0.94	42.6	591.9
三菱商	3,950	923	76.6	商社	3.26	0.61	23.4	46.5
三井物	2,760	656	76.2	商社	2.88	0.59	23.8	40.4
HOYA	3,460	1,212	65	精密機械	8.43	1.51	35	445.5
スター精	2,415	773	68	精密機器	7.88	0.79	32	199.2
リコー	1,986	770	61.2	精密機器	8.29	0.64	38.8	205.9
信越化	7,000	3,620	48.3	化学	8.75	1.18	51.7	533.8
富士フイルム	4,680	1,746	62.7	化学	14.5	0.58	37.3	313.7
コマツ	3,440	702	79.6	機械	5.54	1.1	20.4	124.3
豊田織	4,470	1,700	62	機械	15.48	0.48	38	282.4

資料F：業種別の比較

資料Fから下落率を優先的に、次にP E R、P B Rの指標も考慮し、（投資価値を見るためP E R×P B R×下落度、この独自の指数の高を参考にした。）同じ業種から2社選ぶことにした。精

密機器、商社、化学などリストに 2、3 社しかない場合はサービス、電気機器など、候補の多い業種の選択枠を 2 から 3 に引き上げた。そのとき新たに加わる 3 社目はチーム内で話し合い、話題性なども含めて決めた。その結果 17 銘柄をポートフォリオに組み込むことにした。

4: 購入金額の決定

あらかじめ投資先の業種が固まらないようにバランスよく分散されているため、業種によって投資金額が大きく偏ることはないことになっている。私達は話し合った上で、銘柄を安全性で選んでいるため、バリュー投資の色合いが薄くなることを懸念し、投資金額は割安感を重視して配分することにした。割安度をメインに配分することは、下落率を指数にすることで可能にできると考えた。そのため購入金額は以下の手順で決定した。

- ① 各銘柄の下落率を小数点第 1 位で四捨五入する。
- ② ①の数値を 17 銘柄分足し、500 万円を配分する分母を決定。
- ③ $500 \times ① \div ②$ で購入金額決定
- ④ 余りが出れば金額の一番低いところに加算、足らなければ一番高いところから減算する。
- ⑤ 投資金額の最低限度に満たないものが出てくれば、金額が一番高いところから最低金額になるようにもってくる。

銘柄	下落率	下落率の四捨五入	投資金額(万円)
任天堂	66.5	67	30
アステラス製薬	34.5	35	16
トヨタ	55.6	56	25
ディーエヌエ	75.3	75	34
デンソー	70	70	32
KDDI	43	43	20
住友鋁	76.1	76	35
コマツ	79.6	80	36
大東建	54.7	55	25
三菱商	76.6	77	35
日産自	73.6	74	34
ソニー	72	72	33
商船三井	78.8	79	36
富士フイルム	62.7	63	29
スター精	68	68	31
田辺三菱	38.2	38	17
大和工	71.4	71	32
合計		1099	500

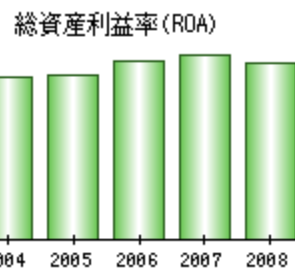
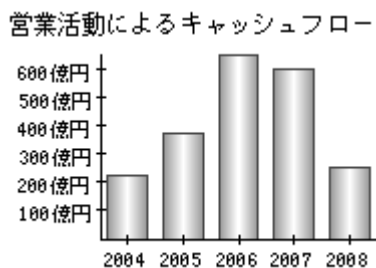
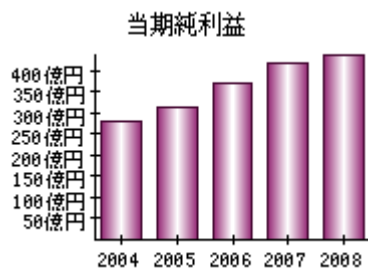
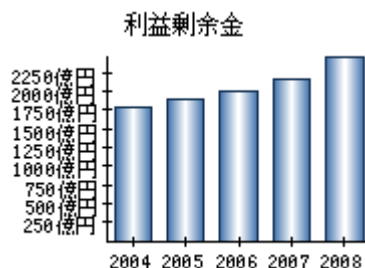
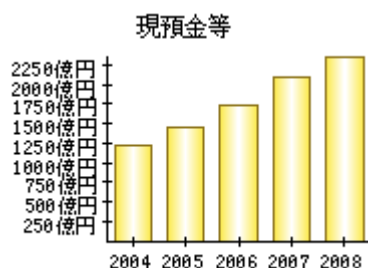
各銘柄の投資金額

5: 購入銘柄解説

チャートは Yahoo ファイナンス、6 つの棒グラフは Ullet から。チャートの円で囲んだ部分は 10 月からの不況の影響を受けている部分を示した。一部それ以前から目立った下落がある場合は、そこも示している。尚、以下で出てくるランキングとは資料 E を、下のグラフとは Ullet の棒グラフを指している。

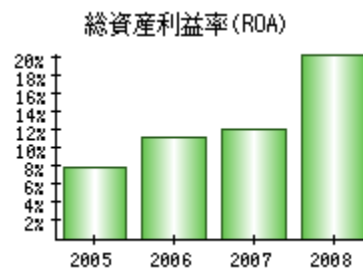
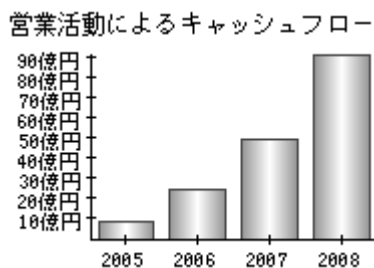
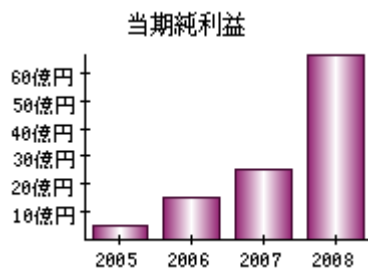
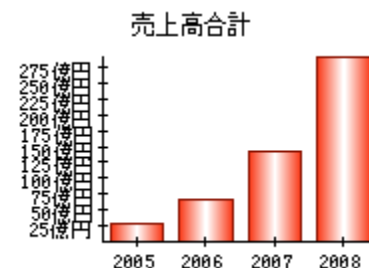
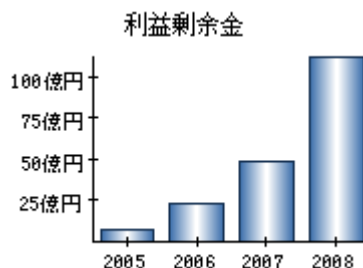
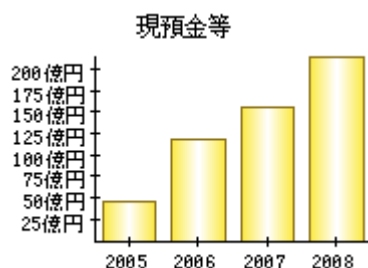
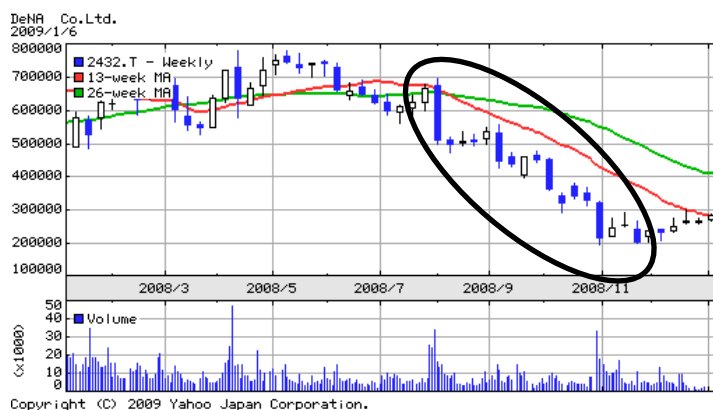
1878：大東建託

「いい部屋ネット大東建託」というフレーズが印象的なCMの企業。優良企業ランキング 27 位。ランキングの得点内訳を見ると安全性が 80 と、その高さが伺える。今年是不況により営業活動によるキャッシュフローが下がっているものの、そのほかのグラフは年々右肩上がり。企業理念の透明性を見る限り、ランキングの位置は伊達ではないことが分かる。同業者が倒産していく中、業務実績や企業規模をみるとこの不況を耐え抜くことができると考えた。



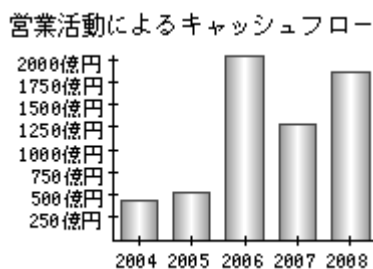
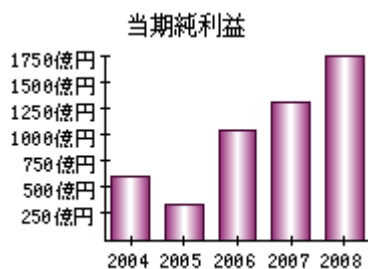
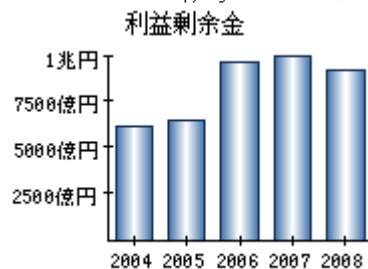
2432：ディー・エヌ・エー

携帯電話サービス「モバゲータウン」を提供している会社。ランキングでは13位であり、成長力90は、携帯電話の普及率の高さなどの要因から見られた数字だと思われる。右肩上がり下のグラフも2008年急激に増加している。不況に入る10月より前に暴落しているが、優良企業であることと、今後の発展性を考慮すると割安性、投資価値共に十分であり、バリュー投資にふさわしいと考えた。



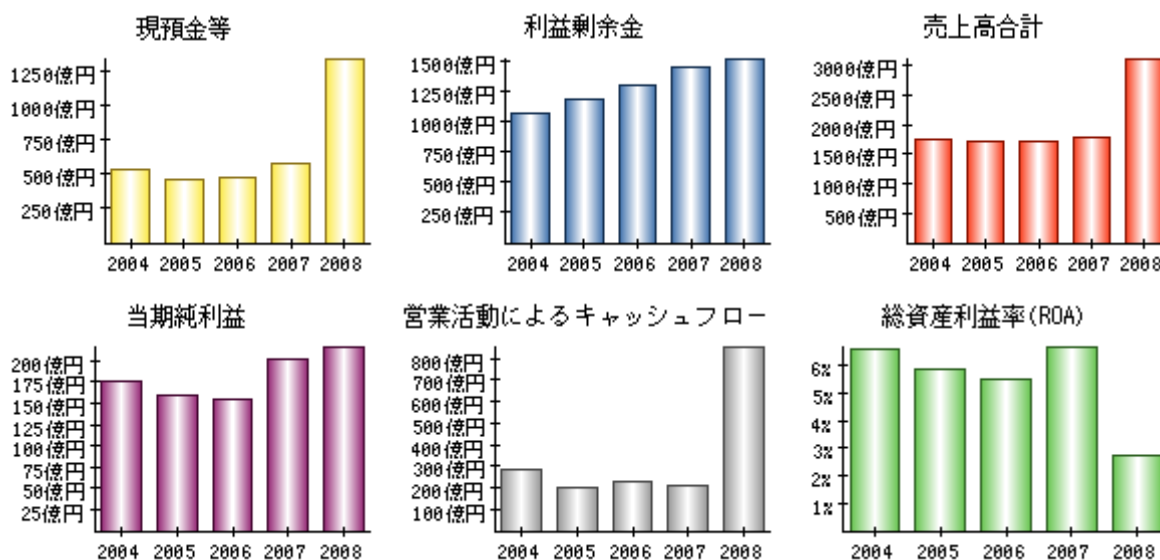
4503：アステラス製薬

「明日は変えられる」というスローガンを掲げる会社。景気鈍感株といわれる製薬業だが今回の不況はさすがに株価に反映された模様。ランキングでは3位、規模と安全性が高く、不況の中安心して投資できる銘柄と考えた。成長性は微妙だが、堅実であるため選んだ。



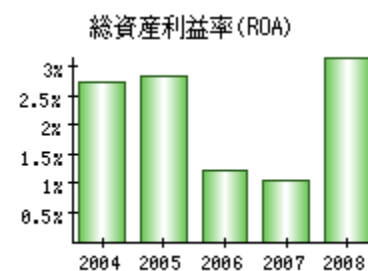
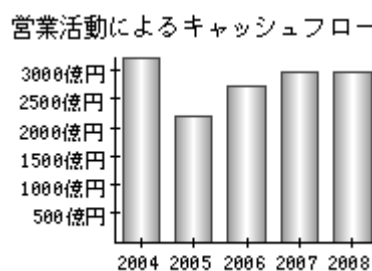
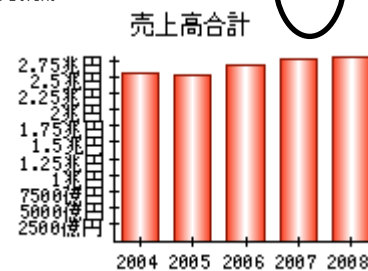
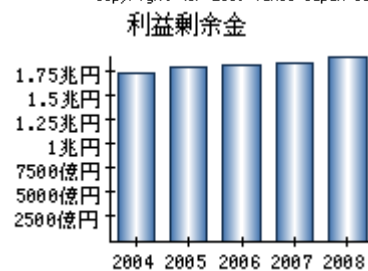
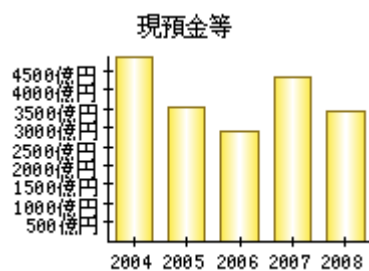
4508：田辺三菱製薬

田辺製薬と三菱ウェルファーマが2007年合併し、新たに誕生した企業。「新たな事業機会への挑戦」に向けて事業展開ということが影響しているのか、ランキングでは43位ながら成長力が86と高い。同じ製薬会社ではアステラス製薬を選んでいるが、株価の上昇と今後の成長に期待できるとして、投資価値があると判断した。下のグラフで2008年急激に伸びているのは合併によるものと考えられる。



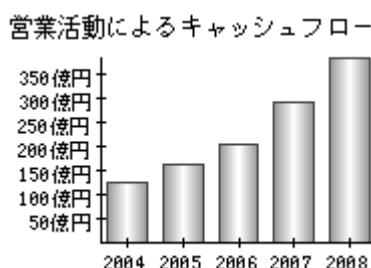
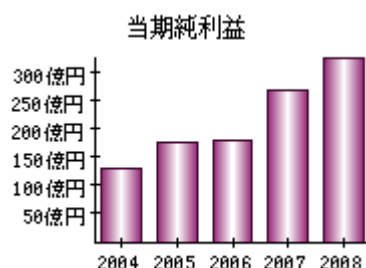
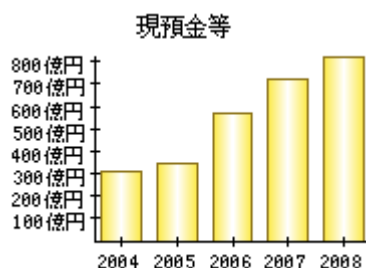
4901：富士フィルムホールディングス

富士フィルムと富士ゼロックスを傘下荷物企業。ランキングでは41位だが企業90、さらに下落率をみると62.7と不況のあおりを受けているのが分かる。チャートは分かりやすくするため期間を2年にしてある。規模から見た割安性で購入を決めた。業績は横ばい、成長性より実績をとった形である。



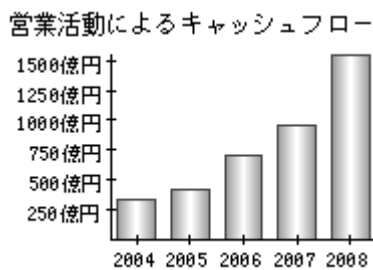
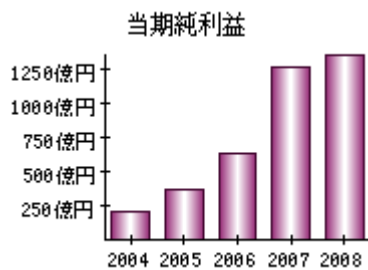
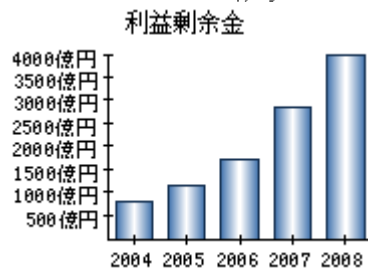
5444：大和工業

鉄鋼業主力で大和工業グループを束ねる。ランキングでは 48 位、収益性が 83 と高く、年々順調に増加するグラフの内容も魅力的である。10 月を境に株価が半分ほどになっているため。バリュー投資をするには、企業価値から見ても十分であると判断した。グループなので規模もあると未定と思う。



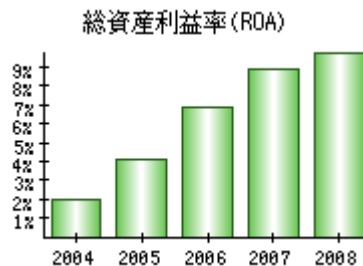
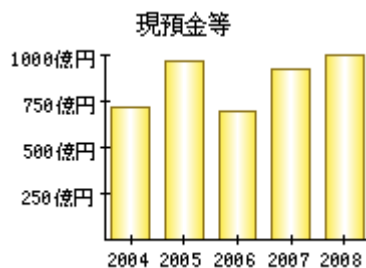
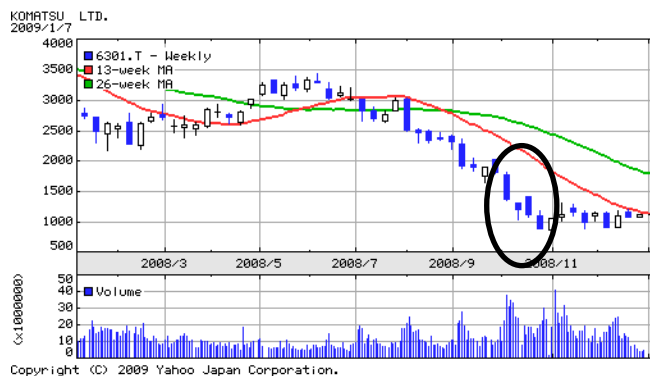
5713：住友金属鉱山

非鉄金属を取り扱う企業。ランキング 22 位、規模と収益性が高い。住友グループであるためと思われる。チャートを見ると 2008 年 5 月あたりの下落が気になるが、業績が伸びているところから見ると割安感もある感じがする。とにかく住友グループということで安全性が高いと判断した。



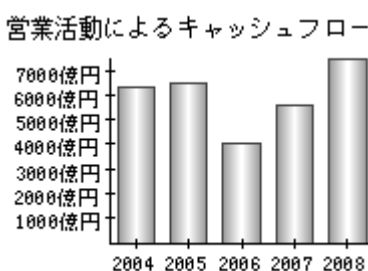
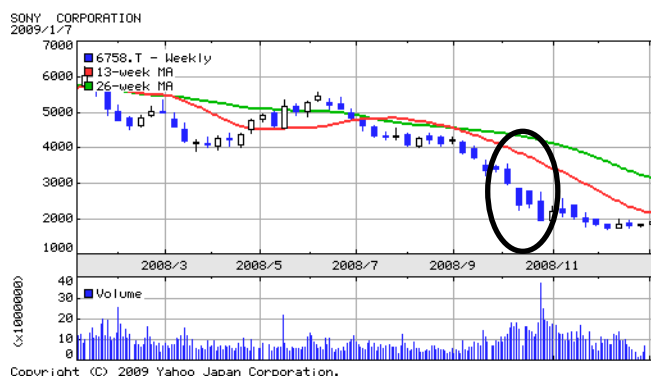
6301：小松製作所

国内外に生産拠点を持つ建設機械、重機械メーカー。規模と収益性が高く 24 位。2008 年 8 月から続く暴落が気になったが、企業規模から考えて倒産のリスクは極めて少なくいと思い、バリュエーション投資と割り切った上で購入。年々業績を上げてきているため回復も容易だと思われる、そのため投資する価値はあると考えた。もう底値ではないかとも思える。



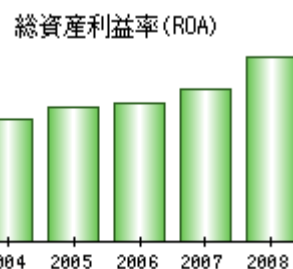
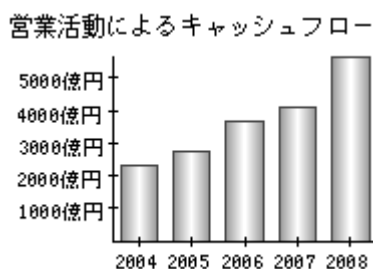
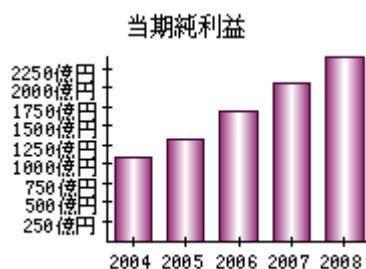
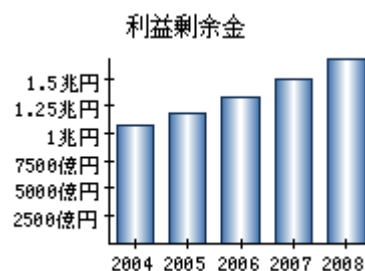
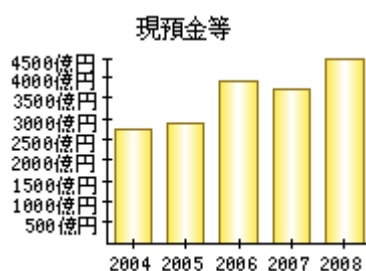
6758：ソニー

電子、電機機器メーカー大手。その規模は世界のソニーといわれるほど。ランキング 31 位でもその規模の大きさが目立つ。ゲーム関連では任天堂などに押され気味感があるが、映像、音響等の放送機器では世界屈指のメーカー。しかし、さすがのソニーもこの経済危機ではその影響を受けたようだ。このくらいの企業では不況の打撃も受けるものの、立ち直りはさほど難しいことではないと考えた。



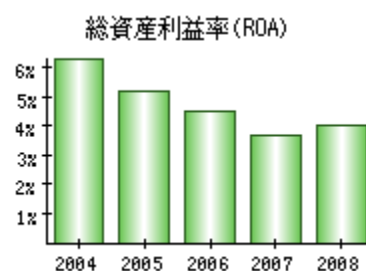
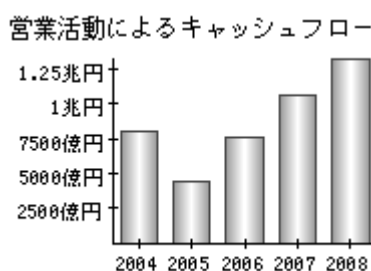
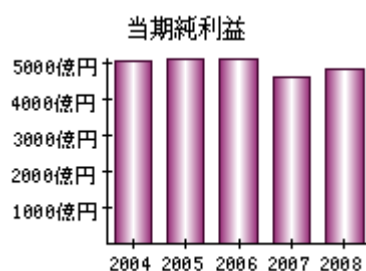
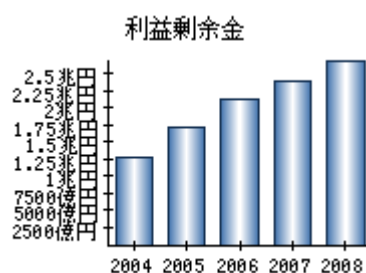
6902：デンソー

トヨタグループの自動車部品メーカー。企業規模は大きく同業種内では世界 2 位(1 位はドイツのボッシュ)。ランキング 16 位で。自動車関連ではあるものの、扱いが電気機器となっているため自動車業者としてではなく電気機器扱いにすることにしてポートフォリオに組み込んだ。下落はなかなか落ち着かない部分が少し気になったが。後述するトヨタが回復すればつられて上がると考えて、あまり大きな問題ではないとした。



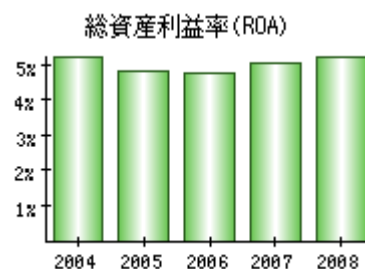
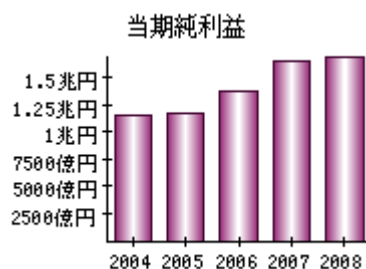
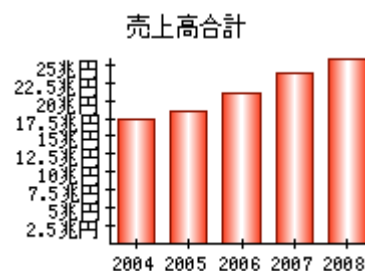
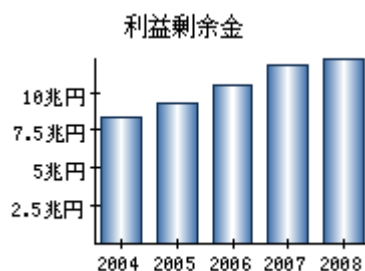
7201：日産自動車

大手自動車メーカー。日本のビッグスリーでもあることから規模の大きさは分かる。ランキングでは同業種のトヨタに全ての項目で劣るものの、バリュー投資の重要な部分の割安性でトヨタに20%ほどの差をつけている。大きな不祥事もなくCEOにミシュラン、ルノーを建て直してきたカルロス・ゴーンがいるため、かつての日産再建劇のように、ピンチからの復活力が高いと見た。



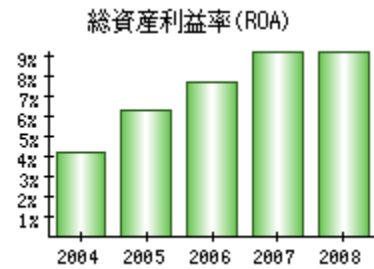
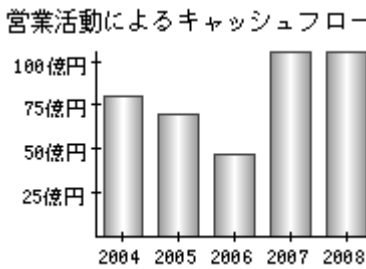
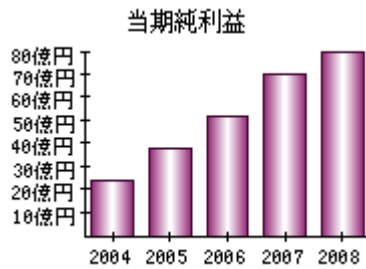
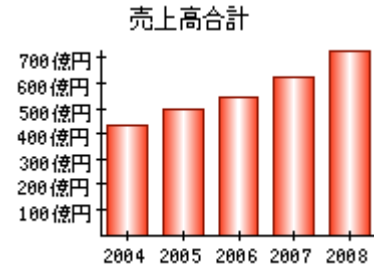
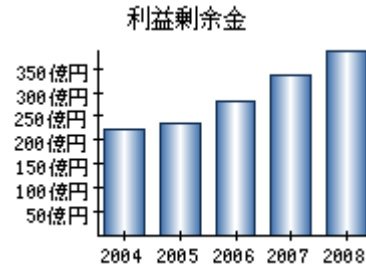
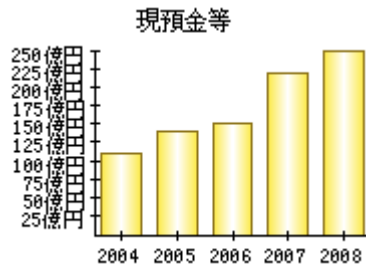
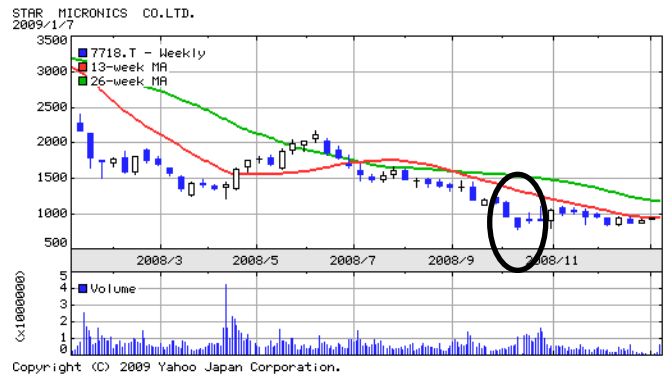
7203：トヨタ自動車

王者トヨタともいわれるほどの自動車大手メーカー。ランキング内訳でもその規模の大きさは100ときわめて高い。ランキング自体でも9位と投資の際の安全性が高いことが分かる。円高、戦後初の赤字など、マイナスの要因が多いものの、元がしっかりとした企業なので、倒産の危機は極めて少ないと考えた。バリュー投資をするには絶好の銘柄であるのではないかな。



7718：スター精密

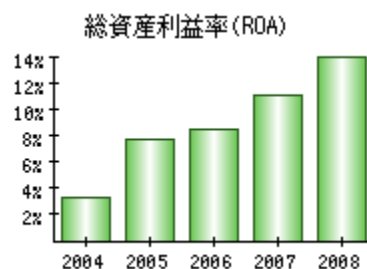
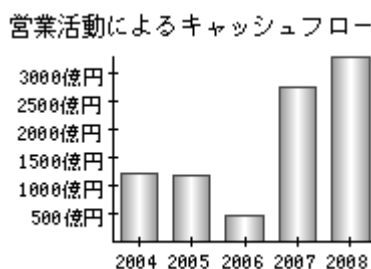
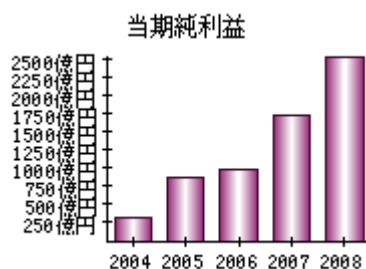
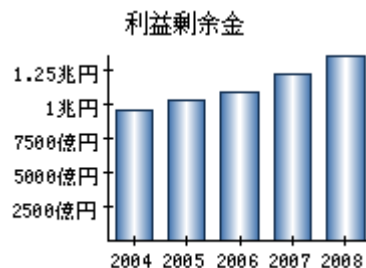
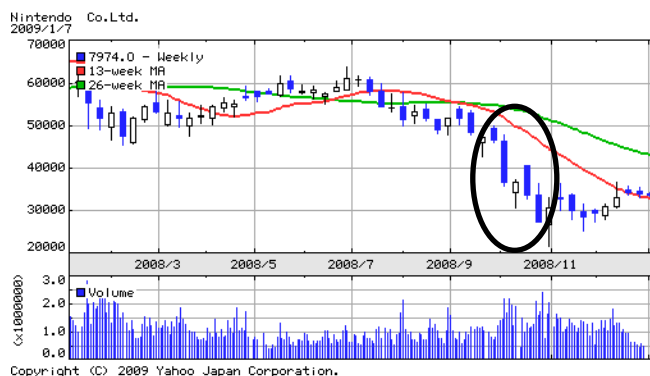
電子機器、工作機械、精密部品のメーカー。企業の中では金融危機による下落が比較的軽い感じがする。経営状態も良く、あと一波か二波くらい耐えられなくもないかもしれない。よって今後を考えてときの保険的意味合いが強いかもしれない。



7974：任天堂

玩具、ゲームを製造する電気機器メーカー大手

この企業も不況の波を受け大暴落している。優良企業ランキング2年連続1位と、超がつくほど安全な企業である。早くもテレビゲーム機 wii が外国での消費を拡大している、などのプラスのニュースも聞かれるため回復はもうすぐそこか。チャートを見れば分かるように下落率も 66.5 と高く、バリュー投資の大本命である。

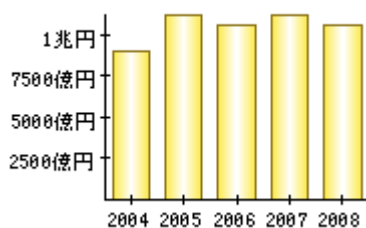


8058：三菱商事

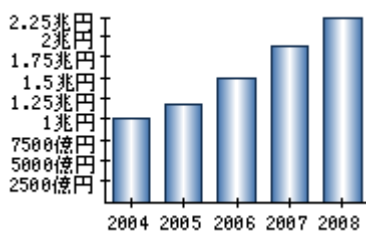
業界最大手の総合商社。ランキングは28位で、何よりその下落率が目に付いた。操業商社であることや、規模の大きさを考えると業績の回復は比較的簡単なのではないかと考えて選んだ。今の状態はバリュー投資のよい機会である。



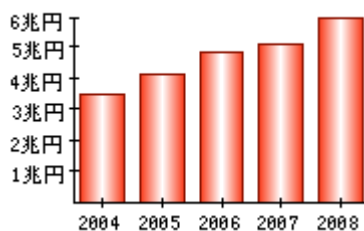
現預金等



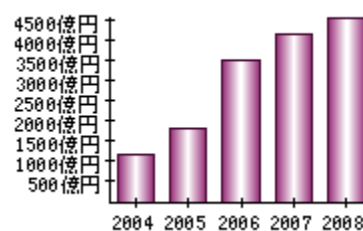
利益剰余金



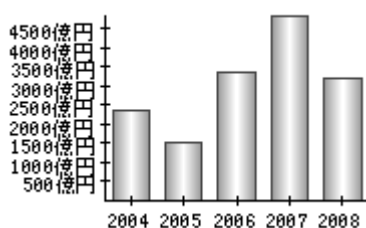
売上高合計



当期純利益



営業活動によるキャッシュフロー

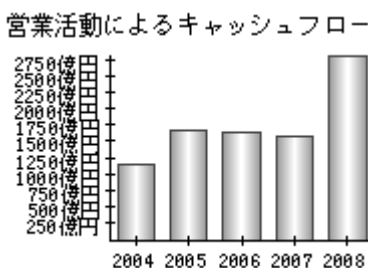
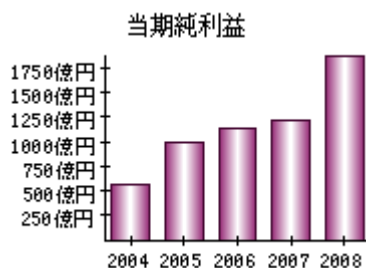
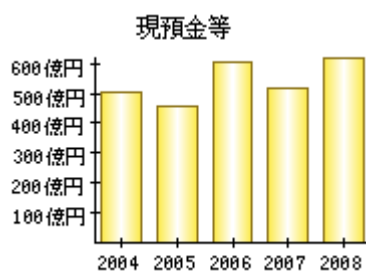


総資産利益率(ROA)



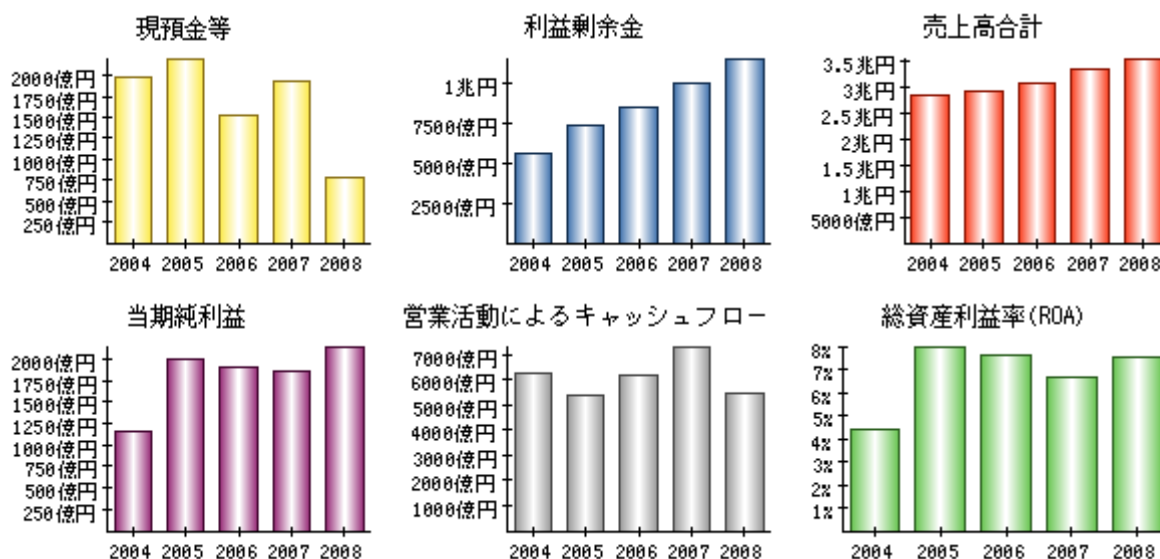
9104：商船三井

海運大手企業。ランキングを見ると規模と収益性が高い。しかし、何より下落率が高く 80% に届きそうなくらいである。とにかく安全性が高いため、投資しても損はない銘柄であると判断した。下のグラフを見ても右肩上がり、特におかしい点は見当たらない。



9433 : KDD I

情報・通信業。一時的に大幅下落を見せた。しかし、本当に一時的なものですぐに収束した様子。携帯電話の普及率に伴い携帯電話事業 (au) の調子がよいのか安定した業績である。すぐに値を戻したため、購入時には元に戻っていたようだ。割安さを求めている場合には失敗といえるが、安全性の高さが証明された形となった。



6:最後に

私達は、4年間ストックリーグに参加してきたことで、この100年に一度といわれる金融恐慌の重大さを知ることができた。この不況は2009年に入っても大抵の経済ジャーナリストは悲観的な予想をして、来年までは続くというようなことを解説していた。この不況は簡単に抜け出せるものではないことは私達も理解することができる。しかし、一緒になってこの状況を悩んでいてはただ長引かせるだけではないか。じっと耐え抜くことは悪いことではないが、少しでも良い方向に持っていくには何らかのアクションを起こさなければいけないのではないかな。ひとまず自分達だけでもこの現状を突き進みたい、そう思いこのテーマでストックリーグに参加した。この姿勢を現実で生かしていくことは大変困難であろう。バリュー投資といってもそのときに買うだけの余力が無ければ意味がない。このように簡単に世間に通用することはないと思いながらも私達が学んだ知識を何とか生かして大不況を生き抜けないものか。初めて参加した中学2年の時には何も分からないまま参加したストックリーグだが。今は世界を見ながら企業に対する理想の投資を考えることができたと思っている。それだけでも、レポートを書くために仲間と話し合い、意見を出し合い、考えを戦わせあった甲斐があるというものである。今すぐ役立たなくともストックリーグに費やした多くの時間は将来の自分達への投資であることは間違いなさだろう。このテーマで、チーム内で話し合い自分達なりに考えた賢い投資方法は何物にも変えがたい大切なものだ実感できた。

7: 参考資料

日本経済新聞

日経ヴェリタス

日経ナビ 2009 : <http://job.nikkei.co.jp/2009/>

企業価値検索サイト Ullet : <http://www.ullet.com/>

ヤフーフアイナンス : <http://quote.yahoo.co.jp/>

大東建託HP : <http://www.kentaku.co.jp/>

ディー・エヌ・エーHP : <http://www.dena.jp/>

アステラス製薬HP : <http://www.astellas.com/jp/>

田辺三菱製薬HP : <http://www.mt-pharma.co.jp/>

富士フイルムホールディングスHP : <http://www.fujifilmholdings.com/ja/index.html>

大和工業HP : <http://www.yamatokogyo.co.jp/>

住友金属鉱山HP : <http://www.smm.co.jp/>

小松製作所HP : <http://www.komatsu.co.jp/>

ソニーHP : <http://www.sony.co.jp/>

デンソーHP : <http://www.denso.co.jp/ja/>

日産自動車HP : <http://www.nissan.co.jp/>

トヨタ自動車HP : <http://toyota.jp/>

スター精密HP : <http://www.star-micronics.co.jp/>

任天堂HP : <http://www.nintendo.co.jp/>

三菱商事HP : <http://www.mitsubishicorp.com/jp/index.html>

商船三井HP : <http://www.mol.co.jp/>

KDDI HP : <http://www.kddi.com/>